

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

回答率

事業所職員： 5名回答、回答率100 %
保護者様： 19名回答、回答率86.3 %

職員の意見

○環境・体制整備

- ・定期的に発達支援室内の備品の見直しや床に貼られたビニールテープの張り直しやを行い利用者が安全にわかりやすく過ごせるように構造化している。
- ・パーティションを使用したクールダウンスペースを作る等、特性に合わせて過ごしやすい環境整備を行っている。

○業務改善

- ・業務前ミーティングを行い利用者の様子や変化を共有し、適切な支援に繋がれるように情報交換を行っている。
- ・保護者への連絡事項に漏れが生じないよう、ミーティングでの情報共有とPCを使用した情報共有を合わせて行っている。

○適切な支援の提供

- ・個別支援計画をもとに個別課題チェック表を作成し、利用者本人がスマートキッズで取り組む課題を理解し取り組めるよう工夫している。
- ・月に1回就労週間として、5領域に沿った就労プログラムを準備し取り組むことで様々な視点から設定した目標に到達できるように支援を行っている。

○関係機関や保護者との連携

- ・区役所で実施している他事業所や学校関係者との交流会に参加し、交流を図っている。
- ・必要に応じて関係機関連携や家族支援を行い、利用者と保護者が安心して生活を送れるように連携を行っている。

○保護者への説明責任等

- ・今年度は1回療育参観と保護者会を行い、日々の様子を見る機会を設けた。また保護者同士の交流を計った。
- ・毎月発行しているニュースレターに写真や説明を掲載したり、送迎時に当日の様子をお伝えしたりすることで教室での取り組みについて良く知ってもらう。

○非常時等の対応

- ・月1回地震・火災・不審者対策・台風などのテーマで避難訓練を行っている。
- ・職員は広域避難場所を把握し、備蓄品の確認を定期的に行っている。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

・生活空間に関しては、多くの保護者に確保されていると認識していただいているが、一部分からない・いいえといった回答があったことを踏まえて発達支援室の配置を見直していく必要がある。運動スペースと学習スペースを分かりやすくして課題に取り組みやすい環境を整備していく。

○適切な支援の提供

・支援内容については概ね理解をいただいているが、地域の他の子どもとの交流については「いいえ」「わからない」の回答が目立った。一方で「特に持たなくても良い」や「近隣教室との交流で十分」といった声があることを踏まえ、今後実施できるイベントなどを検討していき、ニーズに合わせて近隣教室や地域との関わりを深める取り組みをしていく。

○保護者への説明等

・家庭との連携が取れているといった意見が多くいただいた中で、「どちらともいえない」の回答があったことから、直接送迎などで対面することのない保護者に対してもメールなどで支援内容を定期的に連絡するなど、すべての利用者に対しての連携をさらに強化していく。

○非常時等の対応

・非常時の対応の回答においては「わからない」「どちらともいえない」の回答結果が多く見られ、周知が足りていない可能性がある。月1回の避難訓練の内容をニュースレターなどに記載し、安全対策や非常時の対応について周知していく必要がある。

○満足度

・9割以上にご家庭に満足いただける結果となった。更に療育の質を上げて行けるよう職員同士の情報共有を強化し、利用者が過ごしやすい教室運営に取り組んでいきたい。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

・業務前ミーティングを実施し、報連相を徹底して情報に伝達漏れのないようにする。
・祝日などを利用して、年2回の保護者会の実施。きょうだい児に向けたイベントを計画する。
・昨年に引き続きブログの作成を行い、外部へ活動内容を知ってもらえるよう努める。

○改善できた点・まだ残る課題

・業務前ミーティングを実施し、連絡事項を共有し各職員が把握できるよう務めた。ただ支援中の連携が完全でない部分もあったので支援中の情報共有方法を検討していきたい。
・保護者会の開催は療育参観と合わせて1回にとどまり、登録曜日以外の家庭に対しての周知が不十分であったとの意見も見られたので次回以降は早めにお知らせを配布するなどして全家庭に周知できるよう努めたい。
・ブログ発信においてはほぼ実施できていない結果となったため、今後はイベントや療育内容をより多くの方々に知ってもらえるよう季節ごとに実施していきたい。

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・5領域に沿った集団プログラムの作成、また利用者の意見も取り入れて活動内容に立案をしている。
- ・卒業後に就労に向けて月1回就労週間を設け模擬面接や仕分け作業を行い、実際の就労をイメージした活動を行っている。
- ・小集団で行う専門的支援では、ペアを組んでの流れ作業やゲーム形式の遊びなど個別支援計画に基づいてバラエティに富んだ活動を行っている。

○改善点

- ・長期休みには他教室の交流イベントを計画し、異年齢の児童交流を図っていく。
- ・保護者会の開催においては全利用者に対して参加を呼びかけ、支援内容の周知していく。
- ・定期的に各家庭で困りごとがないか確認し必要に応じて家族支援の場を設けていく。
- ・職員間の情報共有方法を確立していく必要がある。
- ・外部に向けた情報発信が少ないため、ブログの作成など発信方法を検討していく。

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

①非常時の対応に関する周知

- ・感染症・虐待防止研修など各種研修に取り組んでいることを周知することで、安全に配慮した教室運営への理解を深める。

②教室イベント・保護者同士の交流

- ・年2回の療育参観・保護者会を開催し、保護者同士の交流を持つ場面を設ける。
- ・きょうだい児の参加も呼びかけ、家族参加型イベントを計画していく。

③職員間の情報共有

- ・教室内ミーティングの実施についてルール化していく。

④外部への情報発信

- ・ブログを定期更新し教室内の様子を外部に伝えていく。

○1年間で取り組む具体策

①避難訓練の実施状況についての周知

- 避難訓練の様子を定期的にニュースレターに掲載し、どのような訓練を行っているかを周知していく。
- 4月と長期休暇前に各種マニュアルを保護者に書面で配布し周知する。

②年2回の療育参観・保護者会の実施

- 前期・後期に1度ずつ実施する。1か月前に書面での周知を行う。
- 在籍校が違う保護者同士の交流を深め、情報交換の場を設ける。

③職員間の情報共有

- ・教室内ミーティングを固定の時間で開催していく。参加できない職員がいた場合は別途共有できるツールを作成し、活用していく。

④ブログの担当者を決めて、月に1回更新ができるよう対応していく。

スマートキッズ